

平成 22 年度
事業報告書

平成 23 年 3 月 25 日

特定非営利活動法人 日本リザルツ



平成 22 年度事業活動 & トピックス（平成 22 年 1 月 1 日～平成 22 年 12 月 31 日）

日付	活動内容
1 月	
★12 日 ハイチ大地震	
15 日	リザルトレター vol12 発行
20 日	リザルトレター 号外 発行
28 日～29 日	国際連帯税 リーディンググループ総会@チリ 第 7 回 開発のための革新的資金メカニズム・リーディンググループ総会が開催され、RJ から狩野が参加。日本代表は、次回総会の開催を引き受けた。ASIST として日本での進捗状況を報告した。
29 日	市民キャビネット設立協議会@星陵会館 参加者は 400 名に及び、現政権と NPO との定期協議会の開催などを盛り込んだ「市民マニフェスト」の作成などを活動計画に盛り込んだ。ハイチ地震支援を呼び掛けるチラシを会場にて配布。
2 月	
12 日	ハイチ募金@三崎町交差点 ハイチ地震発生に伴い、毎月 12 日に街頭募金を行うこととなった。この様子は NHK テレビ、ラジオ新聞等に取り上げられた。
14 日～20 日	フィリピン訪問 ストップ結核アクションプランに基づき、フィリピンにおける結核対策支援の基礎づくりが目的。関係者へアクションプランの説明を行い、今後お互いが協力してフィリピンの結核対策に取り組むことを確認。加えて、現地 NGO、医師、元患者とも意見交換を行った。スモークーマウンテンの視察も行った。
3 月	
★24 日 世界結核デー	
4 日	第 15 回国際結核セミナー・世界結核デー記念フォーラム・全国結核対策推進会議@ヤクルトホール 参加者 400 名。財務省国際局仲総務課長の出席があり、保健システム強化には革新的資金メカニズムを考える必要もあるとの発言があった。
10 日	2010 年カナダ G8 ムスコカ・サミットへの要望書を提出 ストップ結核パートナーシップ及びリザルトがサミットへ向けて要望書を外務大臣宛に提出した。内容は 2008 年洞爺湖サミット、2009 年イタリアサミットに続いて結核を含めた感染症分野についてとりあげてほしい

	<p>というもの。外務省からは、今後も日本政府として他の G8 諸国とともに積極的に取り組んでいきたいとの回答があった。</p>
12 日	<p>ハイチ募金@三崎町交差点</p>
15 日	<p>リザルツレター vol13 発行</p>
17 日～19 日	<p>結核予防会全国大会@鳥取及び、企業訪問@岡山 岡山県内の企業を訪問し、結核啓発活動への協力を求めた。社内啓発はじめ、ポスターの掲示やパンフレットの配布協力について賛同を得た。</p>
<p>4 月</p>	
<p>★岡本監事のご厚意により、株式会社東芝様からノートパソコン 2 台を寄贈いただく。</p>	
2 日	<p>ACSM 会議へ参加@ワシントン DC ストップ結核パートナーシップ日本主催（資金は国際交流基金日米センターの助成金）による日本の結核 ACSM の事例研究発表およびそれを材料とした議論の場が日本・米国・英国の結核関係者間で持たれ、日本リザルツから狩野が参加。</p>
8 日	<p>映画「BASURA」上映会、記者会見/ストップ結核チャンピオンに亀田興毅氏が就任@憲政記念館 フィリピンのゴミ捨て場「スモーキーマウンテン」を舞台にしたドキュメンタリー映画「BASURA」の上映会を行った。来場者は国会議員をはじめ計 300 名。同日の亀田興毅選手（ボクシングフライ級）のストップ結核チャンピオン就任に際し貢献。</p>
12 日	<p>ハイチ募金@三崎町交差点</p>
13 日	<p>ODA に関する NGO と外務省定期協議会の臨時全体会議@外務省講堂 外務省側の ODA のレビュー作業にたいして NGO 側から意見を表明するもの。</p>
15 日	<p>第 4 回ストップ結核アクションプランフォローアップ会合@外務省 アクションプランができてから約二年経過。外部評価・第三者評価をすべきではないかと提案。また、STBJ と厚生労働省担当課との定例会議の提案も行った。</p>
15 日	<p>G20 財務大臣・中央銀行総裁会議にむけての要望書を提出 菅財務大臣らにカナダで開催される G20 財務大臣・中央銀行総裁会議へ向けて要望書をリザルツの白須事務局長、オルタモンドの田中事務局長で提出。要請内容は、カナダサミットで MDGs、金融取引税など、そして投機マネー抑制を議論することについて。</p>
20 日～26 日	<p>ハイチ視察 大地震から 3 カ月が経過したハイチを白須と松永が視察。須藤シスターと NHK の取材班に同行し、ハイチの結核医療の拠点でもある GHESKIO（ゲ</p>

	スキオ)などを訪問。日本大使館において意見交換も行った。
24日	国際連帯税を推進する市民の会（アシスト）総会&一周年記念シンポジウム@青山学院大学 国際連帯税に関わる各分野からリザルツの狩野を含む専門家5名に池田香代子氏を加え議論が行われた。
5月	
★15日 国際連帯税国際専門家グループの最終報告書が提出された。	
12日	ハイチ募金@三崎町交差点
13日	岡田大臣へ申し入れ 4月に行ったハイチ視察の報告とともに、現地における感染症対策の強化を要望した。
15日	リザルツレターvol14 発行
20日～21日	第85回日本結核病学会@京都 白須がSTBJの代表理事として、狩野がアドバイザーとして参加。ブースを出展し、結核の啓発活動を行うとともに、関西地区の結核関係者と情報交換を行った。
6月	
11日	各政党政調会に申し入れ 国内外の貧困・格差対策に関する要望を行った。
11日	ハイチ募金@三崎町交差点
12日～13日	アフリカン・フェスタ2010@横浜赤レンガ倉庫 ブースを出展し、アフリカ地域の貧困、そこでの感染症拡大の問題などを紹介。またハイチ絵画も展示し、来場者の関心をよんだ。
20日～24日	リザルツ30周年記念国際大会@ワシントンDC 日本からは白須、狩野が参加し、総勢約250名を数えた。世界の結核アドボカシーを行っているACTIONグループ会合では、日本国内などの国際連帯税の動向について発表し、12月のNGO東京国際会議に世界中から募集するよう要請。
7月	
★15日 開発のための国際金融取引タスクフォース（日本からは西村智奈美外務政務官が参加）の専門家部会による調査報告書が公表された。	
12日	ハイチ募金@三崎町交差点
13日	動く→動かす 総会 三浦が運営委員に立候補。承認され現在、委員として活動中。
21日～23日	「ストップ結核パートナーシップと関西地域の結核対策」@関西大学 関西地域のこれからの結核対策のあり方を考えるセミナー及び意見交換

	会に参加。その後あいりん地区を訪問した。
7月26日	財務省の玉木林太郎財務官へ申し入れ 米国リザルツ作成の調査報告書（効果なき援助）を米国リザルツのスタッフと共に提出。世銀の保健分野への支援拡大を訴えた。
29日	国際ラウンドテーブル 地球危機の最前線で～世界基金のこれからを考える～@日本BD社 国会議員、報道関係者はじめ、約100名が参加。厳しい財政問題に直面している世界基金について議論を行った。ウィンストン・ズル氏、ルーシー・シェジーレ氏、クリスティーナ・パーズ氏（BASURA 主人公/初来日）を招聘。須藤シスターからは、ハイチでの感染症問題の現状や地震後の復興活動の様子が紹介された。また、今回のシンポジウム開催に際し、世界基金の2010年の報告書を和訳。
8月	
4日	菅総理と潘基文国連事務総長の会談 米国リザルツ代表のジョアン・カーターが、ジェフリー・サックス氏に協力を求め、サックス氏が改めて潘基文（パン・ギムン）国連事務総長へ強い働きかけを行った。潘事務総長は菅総理と会談した際、MDGs サミットへの出席と世界基金への新規拠出を要請した。また、川田龍平参議院議員が予算委員会にて国際保健分野における日本の支援について総理へ質問。「世界基金第三次増資会合についての新規拠出を、昨日、国連事務総長の潘基文総長から要請をいただき、検討をお約束いたしました。」と改めて表明した。
21日	クリスティーナ（BASURA 主人公）の記事が掲載される 朝日新聞「ひと」にて紹介される。
25日	岡田外務大臣へ申し入れ 国際連帯税創設を求める議員連盟の林芳正会長代行、斉藤つよし事務局長、白須事務局長と田中徹二オルタモンド代表（RJ 理事）、横浜市大金子文夫教授が、国際連帯税推進協議会の報告書（ドラフト）を手交するとともに国際連帯税実現への申し入れを行った。尚、白須、田中氏は寺島委員会委員。
26日	峰崎財務副大臣へ申し入れ 白須事務局長と田中徹二オルタモンド代表（RJ 理事）、横浜市大金子文夫教授、ビショップ氏（日本ベクトン・ディッキンソン社）などが、国際連帯税推進協議会の報告書（ドラフト）を手交するとともに国際連帯税実現への申し入れを行った。世界基金への拠出継続についても要望した。

9 月	
★3 日 国際連帯税推進協議会（通称：寺島委員会、2009 年創設、月 1 回の頻度で開催、白須は NGO 委員）で最終報告書が承認された。	
★22 日 MDGs レビューサミットにて菅総理が菅コミットメントを発表。	
1 日	岡田外務大臣へ申し入れ パキスタンの保健分野（結核対策）支援強化について要望した。
2 日	古屋範子衆議院厚生労働委員会理事へ申し入れ 結核患者の治療代と完治するまでの入院治療の無償化について元患者と要望した。国会での質問につながる。
5 日～	世界基金関係者との意見交換 9 月 5 日から有楽町マリオンで開催中の世界基金の写真展覧会「命をつなぐ」と、それに併せて行われたワークショップにゲストとして参加した世界基金理事のキャロル・ニレンダ女史、「ヒア・アイ・アム」キャンペーンのアジア地域代表のヴィカス・アフジャ氏と意見交換を行った。HIV 陽性者である両氏の川田龍平参議院議員との面会をセット。また、写真展のオープニングに参加した菅総理が、浅野理事長と久しぶりの面会。
13 日	ハイチ募金@三崎町交差点
15 日	リザルツレター vol15 発行
17 日～19 日	スタンド・アップ（動く→動かす 主催） 今年、日本では、47 都道府県 562 件、1 万 8240 人が参加。私たち RJ も全ての国会議員事務所をまわり、写真撮影をお願いした。MDGs の目標達成に向けて働きかけ、特に日本の世界基金への継続的支援の必要性を訴えた。
20 日～22 日	MDGs レビューサミット@国連本部（ニューヨーク） RJ 白須がストップ結核パートナーシップ日本（STBJ）の代表理事として参加。菅総理が、（MDGs の達成に向けて）「世界基金が果してきた役割は大きく、敬意を表したい」と述べるとともに、日本政府として世界基金に対し当面最大 8 億ドルの拠出を発表。22 日の革新的資金メカニズムサイドイベントに白須が参加。新外務大臣として参加した前原大臣とも会談。米国リザルツからの参加もあった。
26 日	東京国際連帯税フォーラム@東洋大学 参加者は 100 名以上。寺島報告書完成の報告。また白須が、MDGs レビューサミットの報告を行い、航空券税導入については菅首相に会い政治的決断を促すべきと主張した。
30 日	グローバルフェスタ@日比谷公園 来場者数は昨年度を大幅に上回る 106,000 人（二日間合計）。RJ はブー

	<p>スを出展し、MDGs への理解を訴えるとともに、世界の結核の事情について来場者へ説明を行った。</p>
10 月	
<p>★4～5 日 世界基金第三次増資会合（2011 年－2013 年において、当面最大 8 億ドルの拠出を発表。</p>	
12 日	<p>ハイチ募金@三崎町交差点</p>
14 日～15 日	<p>第 19 回ストップ結核パートナーシップ調整理事会@ヨハネスブルグ RJ からは白須が参加した。RJ は調整理事会議長のリファット・アツン氏（世界基金）、新副議長のベシナ・クマル氏（インド、保健コンサルタント）らと交流を深め、クマル氏を 1 月 15 日大阪で行われる国際結核セミナーに招待した。</p>
18 日	<p>全日空幹部に航空券税についての説明 齊藤つよし議連事務局長、田中徹二氏らとともに伺う。フランスの例をあげ、全ての航空会社に等しくかかる税なので日本の航空会社が競争上不利になることはないことなど丁寧に説明を行った。全日空からは、国民・顧客の合意が必要で合意があれば導入の可能性もという話があった。</p>
24 日～27 日	<p>リザルツ戦略会議/ ACTION パートナーズ会合（世界の結核アドボカシーグループ）@ロンドン RJ からは白須、狩野が参加。米国リザルツ (REF) も含めた各国関係者約 20 名が将来の方向性を議論した。結論は、リザルツ・インターナショナルの創設を検討していくことになった。後者会合では、約 40 名が集まり、世界基金、二国間援助の達成状況、ストップ結核グローバルプラン 2011－2015、ゲイツ財団の方向性等を議論した。</p>
11 月	
8 日	<p>国際連帯税創設を求める議員連盟総会@議員会館 総会に際し、アシスト・RJ のメンバーが国会議員事務所全てを回り、議連への加盟をお願いした結果、議員数は 52 名に増える。林芳正議員が正式に会長に就任し、齊藤つよし議員が幹事長、西村智奈美議員が事務局長という人事が決まった。また RJ はフランス NGO と協力し、国連事務次長 (革新的資金メカニズム担当) のフィリップ・ドスト＝ブラジ氏から林会長あての要請レターの手交が実現した。</p>
11 日～15 日	<p>世界結核肺疾患大会@ベルリン RJ からは狩野、佐藤が出席。今年度は世界 120 カ国、2500 人が集まった。英国結核議員連盟事務局主催のワークショップでは、STB 推進議員連盟会長である梅村聡参議院議員からのメッセージを佐藤が代読。また日本の結核支援紹介ワークショップ、RIT の石川所長主催のコミュニティー</p>

	DOTS・ワークショップにおいて、狩野がプレゼンテーションを行った。
12日	ハイチ募金@三崎町交差点
15日～17日	「都市化と保健」を考えるグローバル・フォーラム（WHO 神戸センター主催）@神戸 RJから三浦が参加。都市化によってもたらされた恩恵とその裏腹である様々な問題を、世界100カ国以上から集まった知事や市長といった政治家、そして研究者、メディア、NGOからの代表者と共に議論した。
28日	BASURA 上映会（国際連帯税共同キャンペーン実行委員会主催）@賀川豊彦記念松沢資料館 貧困問題と連帯税について参加者へ説明。パネリストとして参加した四ノ宮監督からは、フィリピンの貧困問題解決のために、革新的資金メカニズムの導入について賛同の意が述べられた。参加者は約30名。
29日	阿曾沼厚生労働事務次官へ申し入れ 平成23年度結核対策特別促進事業費補助率の見直しについて要望した。
12月	
★8日 WHOと革新的新診断法基金（FIND）等がジュネーブで共同記者会見を行い、簡易結核診断手法の発表を行った。	
7日	7月29日に実施した「国際ラウンドテーブル 地球危機の最前線で～世界基金のこれからを考える～」の報告書が完成。
12日	ハイチ募金@三崎町交差点
15日	「連帯と希望：国際連帯税を実現するための国際シンポジウム」（国際連帯税共同キャンペーン実行委員会主催（RJは特別協賛））@日本BD社各分野から100名以上の参加者があった。専門家委員会の提言にあるグローバル通貨取引税の2011年以降の国際議題化と航空券税の即時導入の二点を盛り込んだコミュニケをまとめた。
15日	リザルツレター vol16 発行
16日～17日	開発のための革新的資金調達に関するリーディンググループ第8回総会（外務省主催）@三田共用会議所 参加者は200名を超え61カ国の代表（加えてアジアを中心にオブザーバー15カ国）、さらに国際機関、日本・各国のNGOが参加した。RJとオルタモンドの2団体は日本からの招待NGOとして出席した。
19日	前原外務大臣への申し入れ 斉藤議員、横浜市大上村准教授、田中徹二氏、およびRJ松永が報告書を提出するとともに、再度、通貨取引税と航空券税導入の申し入れを行った。